

2020年度 松蔭中学校・高等学校 自己評価報告

松蔭中学校・高等学校

これは分掌（各学年担任団、校務担当各部）ごとに下記要領で実施した「2020年度学校自己評価」を報告するものです。

①自己評価は次の14 領域（部署）で実施しました。

- ・各学年団（中学1 年DS/GS～高校3 年の6 学年 7領域）・校務分掌各部（教務部、生徒部、宗教部、総務部、進路指導部、入試広報室、読書運動委員会 7領域）

②評価法

- ・年度初めに、評価対象、評価項目、実践目標等を設定しました。
- ・年度末に、実践内容について評価しました。
- ・評価は、A（よくできた）、B（できた）、C（あまりできなかった）、D（できなかった）の4段階としました。

③改善・向上策・上記評価に基づき、改善策・向上策を検討し記載しました。

学年の部

2020年度 学校自己評価（中1DS） (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
DS	ストリームの目標	学年の目標の理解と実践	学年目標を「生き抜く力、思いやる心」とし、様々な場面で生徒に趣旨を説明し、声かけをする。	学年目標を印刷したものを廊下や各クラスに掲示したほか、学年集会・DS 通信・HR 等で機会があるごとに触れるようにした。	B	単年の目標ではないこともあり、定着には時間を要するが、常に意識を持たせるように、場面場面で継続して粘り強く声掛けをする。
	学習指導	基礎学力の定着と学習意欲の向上	1. 授業や行事予定の確認、持ち物や提出期限のメモ、学習計画等に手帳を活用する習慣を身につけさせ、時間管理・自己管理に繋げる。 2. 成績下位層の生徒に対してサポートを行い、底上げを図る。 3. 応用・実践力を試す機会を設け、入試等の問題を解く力をつけさせる。 4. 成績上位層の生徒に対してサポートを行い、学習意欲と能力をさらに伸ばす。 5. 情報収集、要約、発信力を鍛え、社会で必要となる能力を身につけさせる。	1. 朝礼前の5分間を「手帳の時間」として設定したほか、授業やHR での連絡の際に手帳に書かせるなど、手帳の活用を習慣づけるようにした。 2. 定期考査の成績不振の生徒に対して、考査直後と次回考査前で実施時期を使い分けて補習を実施した。 3. 全員受験の実力考査及び希望者による実力考査を学期ごとに実施した。(コロナウィルスの影響により1 学期は未実施) 4. 数学の成績上位層の力を伸ばす目的で毎週月曜日の放課後に数学特進講座を開講した。 5. 世の中の出来事について調べ、要点をまとめ、意見・感想を書く「MY NEWS」を毎月2 枚ずつ提出させるようにした。よくまとめられた内容のものは廊下に掲示した。	A	1. 取り組みは個人によって差がある。個人に任せず全体で書かせる時間を増やし、手帳の利用を定着させ、時間管理・自己管理に繋げていきたい。 2. 引き続き効果的な補習を行っていく。 3. 希望者対象については、高校での実力考査の取り扱いの重要性等を説明するなどして受験意欲を促す。 4. 次年度も引き続き開講し、上位層の学習意欲と能力の向上を図る。 5. 提出確認ぐらいで、内容に関するフォローが十分できなかったため、生徒の情報蓄積と能力向上に繋げられる形にする必要がある。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	1. 服装・髪型等の風紀面について、学年の教員間で意思統一して指導を行う。 2. 携帯電話・iPad の使い方について、学年の教員間で意思統一して指導を行う。 3. 生活アンケートを学期に1 回実施し、生徒の状況把握に努め、面談の実施やその後の生徒対応に活かす。 4. 新型コロナウイルスの感染予防対策を行うとともに、生徒に対して適切な指導を行う。	1. 本校の規定に照らし合わせて適宜指導した。 2. 本校の規定に加え、学年でもルールを定め、学年集会・DS 通信・HR 等の機会があるごとに周知し、指導した。 3. 学期に1 回実施し、面談やその後の生徒対応に役立てた。 4. 共用施設については学年団で役割分担し、生徒の下校後に消毒作業を行った。生徒に対してはClassi の健康観察アンケートの入力のほか、手洗い、マスク、換気、昼食等の声掛け・指導を徹底した。	B	1. 風紀面についての乱れはほとんどなかったが、今後も必要な指導を継続していく。 2. 一部の生徒ではあるがルールを守れず何度か厳しく指導した。引き続きルールの周知と指導を粘り強くしていく必要がある。 3. 次年度も継続して実施していく。 4. 学年による消毒作業も、生徒への指導もきちんと行い、生徒も適切に行動していた。次年度も継続して実施していく。
	総合学習	中学1 年生では以下の項目に取り組んだ。 1. 社会におけるモラルやマナー 2. 心のマナー 3. SDGs	1. SNS を利用する上での注意点やマナーを学び、学校生活や人間関係に活かせるようにする。 2. スカールカウンセラーの講演を通して、レジリエンスについて学び、学校生活や人間関係に活かせるようにする。 3. SDGs について調べ、まとめ、	1. SNS を題材にしたDVD を視聴し、利用上の注意点や配慮すべきことを確認し、普段の生活で注意するよう意識付けを行った。 2. 梅野先生による講演を各学期に計4 回実施し、自分の気持ちの持ち方や人との関わり方について学び、今後活かすよう意識付けを行った。 3. 班ごとにテーマを選ばせ、iPad を使って	A	1. DVD の内容は理解しても、自分達のトランプ回避に役立てられていないように感じる。普段の学校生活の中でも思い出させて意識させていきたい。 2. 様々な内容についてお話しいただき、生徒にも分かりやすく、実際に役立つ内容であった。SNS 同様、普段の学校生活の中で意識させていきたい。 3. SDGs を題材に、iPad の利用やポスター作成もできたのと、プレゼンのスキル向上

		ポスター発表を行い、理解を深める。	調べ学習を行いポスターを作成させ、クラスでテーマの内容について発表させた。ポスターはその後廊下に掲示した。		の第1歩として良い企画だった。次年度以降もレベルを上げながら継続し、高校に繋げていきたい。
行事	1.夏のキャンプ 2.秋の校外学習 3.百人一首大会 4.芸術鑑賞	1.自然に親しみ、集団生活の中で規律を守り、協力しながら行動させる。 2.地域の産業や歴史に触れる。 3.授業で学んだ知識を競う。 4.臨場感ある芸術鑑賞によって感性を磨く。	1.新型コロナウイルス感染症の影響により中止。 2.丹波篠山を探訪し、立杭焼き体験と黒豆の収穫体験を行った。 3.エッセイコンテストにて大会を行い、後日優勝クラスと個人賞5位までを表彰した。 4.「ヒッコワくわくわくステージ」(1学期)及び「わくわくオーケストラ」(3学期)はともに、新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	B	1.次年度の取り組みの中で、集団生活における規律や協働について指導していきたい。 2.生徒達は意欲的に取り組んだ。地域の産業について直接触れる貴重な経験ができた。コロナ禍でも実施できて良かった。 3.日頃の成果を発揮できる機会を設けることができて良かった。 4.芸術鑑賞は個人で触れることが少ないので、学年として機会があれば実施していきたい。
その他	ICTの活用	1.授業や総合学習、HR活動等で活用していく。 2.生徒の利用スキルを向上させる	1.教科やクラスの連絡ツールとしてClassiを活用しているほか、一部の授業ではアプリケーションソフトを利用して授業を進めたり課題をさせたりしている。 2.1の利用を介して必要なスキルを身につけている。	B	1.授業での活用の余地はまだあるので、今後様々な教科での活用を推進していきたい。 2.スキル向上のための取り組みはほとんどできなかったため、次年度以降、タッチ化ソフト、資料作成、プレゼン等のスキルを向上させる取り組みを行っていきたい。

2020年度 学校自己評価(中1GS)

(A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学1年GS	学年目標	学年目標の理解と実践	「Know the World: Embrace the Unknown.世界の有り様を知り、未知との遭遇を楽しみましょう」という目標の意味と中高6年間での位置づけを説明し、新しい知識との出会いを楽しみ、知的好奇心を高めるように取り組ませる。	何かある度に目標を引用して今の自分たちの位置づけを説明した。また、中学1年生は知識をインプットする時期で学ぶことが多いが、それが〇〇につながるや〇〇と関係している、また〇〇で面白よね?など、好奇心を掻き立てるような声掛けを行い続けた。	B	この1年で色々なことができるようになったことで生徒たちは自信をつけたように見えるが、まだちょっとでも難しいと感じることがあれば、諦めてしまいそうになる。今後も知的好奇心を高める工夫を行いながら、その背中を常に押すサポートを続けたい。
	生活指導	指導方針の確認 指導体制の推進	校則については年度初めに教員間で確認、また迷いがあればその都度、確認する。安心できる学習環境が一番、何かが教室で起こっているようならすぐに教員内で報告相談連絡。	教員間で常に生徒状況を報告し合い、校則については指導の統一ができるように、また不安をかかえている生徒がいるなら、その指導について話し合い、生徒や保護者が安心するよう取り組んだ。	A	教員間で話し合い、指導について共通理解ができた。(正解かどうかは分からなくとも)、生徒にとって常に最善の方法を教員間で常に話し合い、実践できた。
	学習指導	普通の指導		終礼で宿題の確認を行ったり、クラス全員で定期考査に向けて「やるべきリスト」を作ったり、実力考査の振り返りのノートを作ったりと、とにかく何のために、何をすべきか、また反省点は何か分かる振り返りの機会を多くとった。	A	中学の段階では当たり前のようにこの振り返りをできるようになるまで、生徒に伝えていくことが必要。今後も声をかけ続け、常に何のために、何をすべきかを意識させ続けたい。
		音読	朝の音読により語彙力を伸ばし、ポートフォリオで自己を振り返る。また普段からの声や担任との面談を通して、基礎学力の定着及び、学習意欲を向上させる。	小説で叙情的な言葉を覚えたり、ニュースで時事表現を知ったりと多様な文章を扱うことで語彙力や表現力を伸ばした。	B	語彙定着には繰り返しが必要だが、同じ題材を何度も行うとすぐに興味をなくして飽きるので、作品やジャンルの選定を行い、表現を定着させる工夫をもう少し加え、より効果的な指導を行いたい。
		ポートフォリオ		チームで教員と対象生徒のみが閲覧可能なエクセルファイルを作成し、そこに定期考査、実力考査、評定をまとめた表や約20項目の問一答型の振り返りポートフォリオを作成した。情報を集約しすぐに振り返られるようにした。	A	実践内容に行くまでにエクセルシートの形式で施行錯誤を繰り返したため時間がかかったが、3学期には生徒にとって使い勝手の良いものを作り上げることができた。今後、このシステムを活用していきたい。
GL探究(総合)	Specialist(プレゼンテーション)	あるテーマについて学校で1番、教員も敵わない知識を持つことが目標。かつ、パワーポイント(PPT)を用いてプレゼンテーションを行う。	①学期プレゼンテーマ 「自分の興味のあること」「日常のなぜ」 ②学期プレゼンテーマ 「企業取り組みSDGs」 「日常のなぜ～さらにその先へ～」	A	PPTを用いたプレゼンテーションの型を習得することができた。プレゼンを数回し終えた3学期のレシテーション発表時には、生徒たちが明らかに場慣れしている様子が見えた。3学期にはPPTだけでなく、英語動画ま	

				③学期プレゼンテーマ 「好きなこと全カアピール」 「レシテーションコンテスト: English Central Award 2021 の動画とGS の紹介」	で編集して作成することができた。内容面でも目標の通り、教員が知らないような知識まで調べあげて発表した。教員の期待以上の成果を出した。	
	Discussion & Debate (ディスカッション & ディベート)	生徒同士で話し合い、知識を深める。その後、小論文を作成し、生徒同士で相互評価や教員からフィードバックを受け、さらに良いものへ仕上げる。		①学期テーマ 「スケジュール管理について」「偏見について」 ②学期テーマ 「ドラゴン 21 世紀に帰るべきか」「エコバッグの賛否」「動物園の賛否」「割り倍の賛否」 ③学期テーマ 「『防災バッグ 30』、1 つ加えるなら何?」 「コンビニ 24 時間営業の賛否」	B	これまでに考えたことがあるものや身近なものに関しては深い部分まで考察できるが、多角的な分析が必要なテーマに関しては、まだ知識や足らず、事前学習の設定を念入りに行う必要がある。今後、出生率の問題や捕鯨の問題を扱うが、事前知識をどう興味深く生徒に伝えておくかは検討の必要あり。また、次年度には質問力やコメント力を磨く取り組みを行いたい。
	Events (行事企画運営)	①バザーの展示企画運営、②校外学習(教員主導)、③校外学習(生徒主導) 学内の行事ではその意図を見極め、適切なものを考え出し、実行する。教員主導のものは、今の時期だからこそ学んで欲しいものを体験させる。生徒主導のものは、自分たちで計画実行し、学びをデザインする。		①学期 ⇒コロナ禍により実施できず。 ②学期: JICA 訪問(教員主導) 手塚治虫記念館&カップヌードル(生徒主導) 竹中工務道具館(教員主導) ③学期:人と未来防災センター(生徒主導) ⇒コロナ禍により中止	A	3 学期になると、企画案も上手く作成しクラス内でコンピティションもできた。何のためにどこに行きたいのか、予算は範囲内かなど企画段階から分析の観点が広がっているのは嬉しく感じる。実際の振り返りでは、道中の道案内を上手くしたので、地図を自分で読めるようになりたいなど、多くの点で生徒へ気づきを与え、それらが彼女らの成長へとつながっていることが分かる。
	News (時事ニュース)	時事ニュースを習慣的に読み、世界の現状を知る。また、ニュースで使われる語彙表現を学ぶ。		気になるニュースを毎週、自分のことばでまとめ、かつそれについての感想とキーワードとなる言葉や用語を書く。その後、クラスでニュースやキーワードを共有し、日本や世界の現状を知る。	A	最初は上手くまわらず、その感想は「コロナが流行っているから」など深くまで考えられていなかった。調べる物を子ども向けのニュースサイトに限定し、生徒レベルに合うものに設定したところ、徐々に興味を持ち、取り組んだ。学年があがるにつれて語彙も増えるので、徐々にそのニュースサイトのレベルもあげていきたい。
ミカエル国際学校連携	GSM 土曜日講座 ミカエル連携授業	ミカエル国際学校と連携し、国際的な環境で授業を受け、英語で何かを学ぶイマージョン教育を行う。カリキュラム内容を松蔭側と相談の上、決定して効果的な授業を行う。 ※今年度のGSMは非常に運営が難しかった。授業自体に満足していない生徒もいる。毎日マンツーマンでDMMを行うGS生が全体授業の英語授業を受ける会話量が減る。英語レベルが多様なこともあり、個別最適化の考えをいれながらの授業内容や明確なゴールを設定しなければ、単なる英会話の授業となり教育効果は薄い。来年度は、そこを踏まえながらカリキュラムを組み、より有意義な内容となるようミカエル側と調整し連携する。		満足度調査などで生徒の様子を確認しながら、松蔭側の要望や現在の生徒の様子(英語レベル、英語の取りくみ、ICT スキルなど)をその都度、報告した。	C	生徒が何のためにGSMを受けているのかを再度確認し、この年度で「〇〇ができるようになる」という具体的な目標(短期間と長期間)を示し、松蔭教員、ミカエル教員、生徒の3者が常に「何のために、何を学んでいるのか」意識し、取り組めるようにカリキュラムを設定する。
実社会	実社会とのつながり	企業と連携したり、外部コンテストに応募したりで、学びを松蔭という枠だけにとどめず、外の社会とつながる取り組みを行う。		「防災バッグ30」の開発先である株式会社山善より生徒小論文へコメントを頂きフィードバック。English Central Award 2021 応募	A	実際の企業と連携して学びを深めたり、学外コンテストに応募したりで今後も実社会とのつながりを直に意識できる取り組みを多く行いたい。

2020年度 学校自己評価(中2)

(A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学2年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	1. 学年目標を「あなたの心を論しの言葉に耳を知識の言葉に傾けよ」とし、様々な場面で生徒に趣旨を説明し、声かけをする。	1. 学年だより・各クラスでのHR等で取り上げた。	B	・場面によってしっかりと取り組める時もあるが、常に意識をするレベルにはない。継続して粘り強く声掛けをする。
	生活指導	年度初めに方針の確認をする。	1. 学校内のルールをしっかりと守る。教師間で申し合わせ、年度始めの総合学習で生徒とも確認した。	1. 学年の教員全員が協力して取り組めるよう準備を行ない、できるだけ基準をそろえて指導することを心がけた。	B	・生活のルールは守れている生徒が大多数だが、生徒によっては、難しい場合がある。基準を揃え、継続して指導していく。
	学習指導	中学2年生としての学習習慣と基礎学力の定着	1. 学習意欲の継続・向上を促す。 2. 自主的な学習ができるように促していく。	1. 朝礼前の5分を手帳タイムとし、自分のスケジュールの把握につとめ、計画的に学校生活を送れるよう工夫させた。	A	・手帳タイムは、個人個人で取り組みに差が大きい。学年で意義、方法を再確認して、スケジュール管理をする練習として有効活用できるようにする。

			<p>2. 各科目定期考査 30 点未満の生徒に、次の定期考査前に補習を実施した。</p> <p>3. 全員受験、希望者受験の実力考査を、2 学期・3 学期に 1 回ずつ実施した。</p> <p>4. 特に基本的な学習習慣が身につけていない生徒に対し、放課後短時間の補習を考査前 3 週間から 4 週間にわたり実施した。</p> <p>5. 定期的な数学希望者補習、漢検、英検の直前補習など意欲的に取り組む生徒向けの補習を実施した。</p>		<p>・今年度は長期休みの補習が実施できなかったこともあるが、より高度な学習内容を求める生徒向けの補習を増やしていく。</p>
総合学習	いのちの学習	「いのち」という、重いテーマではあるが、中学 2 年生は 2 年生なりに自分の考えをすすめる。	<p>1. 映像視聴や自分の生まれた時についての課題や発表に取り組んだ。</p> <p>2. 多様な出産、育児の諸問題に触れ、生まれてくることの難しさについて考える。</p> <p>3. 1・2 の内容を受け、自分はどう生きていきたいかについて考え「中学 2 年生の主張」として発表した。</p>	A	<p>・中学 2 年生時点では取り扱うのに難しい話題も少なくなかったが、真摯に生徒は取り組んでいた。</p> <p>・例年実施している体験活動が新型コロナ流行のため実施できなかったのは残念であった。</p>
学年行事	<p>1. 海洋キャンプ</p> <p>2. 秋の校外学習</p>	<p>生徒の目標</p> <p>1. 協調性を育て、海洋スポーツの楽しさ、自然のすばらしさを知る。</p> <p>2. 野生に近い形で展示されている動物たちを観察し命をきるきっかけにする。</p>	<p>1. 新型コロナ流行のため中止</p> <p>2. 姫路セントラルパークを訪問し、自由に動き回る動物たちを観察した。</p>	A	<p>・海洋キャンプが中止になったのは残念であったが、校外学習で、自然な状態に近い動物に触れられたのは、命の問題、環境問題等について考える上でもよいきっかけであった。</p>

2020年度 学校自己評価（中3） (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学3年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	<ul style="list-style-type: none"> ・自他を大切に ・授業を大切に～中学3年の自覚を持って 	<p>1. 目標は教室と廊下に掲示。学年集会等で、できるだけ話題としてとりあげた。</p>	B	<p>言葉としては定着してきたように思われるが、数々のトラブルの中で子供たち自身の振り返りの中にはなかなか出てこず。意味合いを何度も説明する必要性を感じた。</p>
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・年度が始まる前の会議で、生徒指導へのスタンスを確認。またその具体化としてガイドラインを決定。 	<p>1. 教員の様々な価値観の中から共有できる点を議論。学年の教員全員が協力して取り組めるよう準備を行った。</p> <p>2. 生徒の様子を常に見守り、保護者とも電話・メール・面談など必要な連携をとった。</p> <p>3. 学年団で、生徒や保護者についての情報交換をこまめに行い、必要に応じて保健室・相談室との連携にも心がけた。</p>	B	<p>生徒間トラブルがいろいろある中で、迅速な対応を心掛けたが、充分であったとはいえないケースもあった。個々の声を聞き、学年団でより細やかに共有していくことが必要。</p>
	学習指導	中学3年生としての基礎学力の定着と中	<ul style="list-style-type: none"> ・中学3年間で学んだことを復習し、整理する。 	<p>1. 週初めの朝礼前の5分を手帳タイムとし、自分のスケジュール</p>	A	<p>「基礎学力判定試験」を意識し、3学期の学習姿勢が変わった生徒が多く見られ</p>

	学3年間の総復習・総まとめの実行	<ul style="list-style-type: none"> ・高校進学を前に、自主的な学習ができるように促していく。 ・「基礎学力判定試験」に対して、しっかり取り組むよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> の把握につとめ、計画的に学校生活を送れるよう工夫させた。 2. 毎朝朝礼前に5教科の5分間ドリルに取り組んだ。 3. 定期考査 30 点未満の生徒に対して「補習」を実施した。 4. 長期休暇の課題の中に「基礎学力判定試験」につながる学習を取り入れるようにした。 5. 全員受験、希望者受験の実力考査を、学期に1回ずつ実施 6. 英語教室・英検対策講座など、自主的に興味を持って学べる環境を整える。 7. 考査前の放課後、自主学習教室を開き、教員に質問できる体制作りをした。 		た。また、昨年よりも考査前の学習にはやく取り組むようになった生徒が増えた。
総合学習	「平和」についての学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「戦争」「平和」というテーマを考える。 ・長崎修学旅行が、有意義なものとなるよう、原爆や過去の戦争の歴史を学ぶだけにとどまらず、「現代の戦争」についても考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 中東など今戦争・紛争が起きている地域で活動するジャーナリストを招き、現代の戦争について学んだ。 2. 「戦争の恐ろしさはなにか」という観点に立ちながら、学習効果の高い映像資料を多用する形で学習に取り組んだ。 3. 2学期、また3学期ともに計画していた長崎修学旅行は実施できなかったが、被爆者の方には来ていただき、貴重なお話を聞く機会を持った。 4. コロナウィルス感染症予防のためのさまざまな制約があり、討論等の形は持てなかったが、各自意見をまとめ、冊子化し、生徒間での意見の共有も行った。 	A	単に歴史としての戦争だけにとどまらず、今現在起きている戦争や紛争、戦争が決して遠い場所、遠い過去の問題ではなく、今、そこにある問題としてとらえることにつながればと考えながらプログラムを組み立てた。長崎での平和学習を行えなかったことは非常に残念ではあるが、可能な限り生の言葉を聴く機会を持つように企画・実行。子供たちが「考える」人になることができるよう、これからも機会あるごとに問題を投げかけて行かなければならない。
学年行事	<ul style="list-style-type: none"> 1. 修学旅行 2. バザー 3. 秋の校外学習 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 長崎県を中心に、自然や歴史にふれる。 2. クラスで工夫・協力しながら、おもにゲーム系の売店を担当。バザーに協力する。 3. 京都を散策し、世界遺産に触れる。クラスメイトとの親睦をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1. コロナウィルス感染症予防のため、実施できず、代替旅行を企画するも、再び実施できず。 2. コロナウィルス感染症予防のため実施できず。 3. 天龍寺を起点に、嵐山を散策。修学旅行の班別学習の練習を兼ねて、グループ行動とした。 	B	さまざまな行事が実施不可となり、子供たち同士の連帯感を高めたり、親睦をはかったりといった場がもてなかった。日常的にも密を避ける行動を要求される中で、校外学習は数少ない交流を深める行事であった。

2020年度 学校自己評価 (高1) (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高 校 1 年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	<ul style="list-style-type: none"> ・人はそれぞれの歌を持つ ・もっとバラが欲しければ、もっとたくさんバラの木を植えなさい。 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 目標は教室と廊下に掲示。学年集会や学年だよりで、できるだけ話題としてとりあげた。他人に求めるばかりでなく、自分の人生の課題に自分で立ち向かうという意識を持つよう、促し続けた。 2. 学年だよりは毎号、朝礼等で主任が生徒に直接訴える形をとっている。 	A	「人生の課題」というフレーズを多用した。特にコース選択や科目選択など、他の誰でもない自分自身が判断する課題が、中学の頃より多くなる。答があるのか、ないのかもわからない難しい課題であるが、そこから逃げずに、考えることの大切さを理解してほしい。大人にとっても難しい課題ではあるが、その意識を学年団でさらに共有できればよかった。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・年度が始まる前の会議で、生徒指導へのスタンスを確認。 ・常に学年団で生徒の様子を伝えあえる雰囲気、普段から作っておく。公式の会議ではない場面でも、生徒の話を教員間で交わす。 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 教員の様々な価値観の中から共有できる点を議論。学年の教員全員が協力して取り組めるよう準備を行った。 2. 生徒の様子を常に見守り、保護者とも電話・メール・面談など必要な連携をとった。 3. 学年団で、生徒や保護者についての情報交換をこまめに行なった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒間トラブルは色々あったが、迅速な対応を心掛けた。教員が研究日で不在時の対応も、前日・翌日に綿密に行なった。 ・保護者や生徒とのコミュニケーション、信頼関係がどれほど重要か、改めて肝に銘じる必要がある。
	学習指導	高校1年生として、中学とは異なり、自主的に学習する習慣の定着をはかる。特に基礎学力だけにとどまらず、応用的な力、大学などの進学を意識した学力	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT デバイスを使い、連絡をこまめにしながら、自分で学習スケジュールを管理することを目標とする。 ・学校での授業はもちろん、家庭学習などの「自主的な学 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 朝礼時に iPad を利用しながら、当面の予定を確認する習慣をつける。 4. iPad など、デジタルと従来型手帳のアナログの両方を上手に使いながら、学習や学校生活を自律的におくれるよう促した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・iPad と手帳をうまく使い分けることができるようになった生徒が多くなったが、そこに至らない生徒も見受けられる。 ・基礎的な学習は、普段の授業

	を視野に入れた学習習慣を身につける。	習」時間を増やしていく。 ・高校生として初めての模試(実力考査)を通し、自分の力を知り、足りない部分を補っていく。	3. 土曜日3時間目の「課題学習」の時間を有効に活用する。Classiの学習動画を利用したり、自分に合った学習内容・学習材料を各自で用意し、自主的に取り組む。		にまじめに取り組むことで、ある程度達成できているが、それ以上の「自主的に身につける学力にはまだまだ至っていない。人と比べるのではなく、過去の自分と比較して、少しでも力がつくよう、動機付けも含めて工夫していきたい。 ・課題学習の時間は、ほぼ私語はない状態で学習できた。この感覚を家庭まで延長できる工夫を。
総合学習	「生き方・進路」についての学習	・「進路」 近い将来の進学先(大学など)を考え、具体的に調べる。 ・「生き方」 長い目でみたときの、自分の生き方(人生)を考える。 以上の2点はどちらも切り離すことができず、相互に関連することであり、高1は高1なりに真剣に考え始めるべきことである。答えは出ないかもしれないが、答えが出ないことが考えなくてよいと言うことではない。まず考え始める、と言うことを最重点項目とした。	1. 1学期は、コロナ休校があり、例年と比べスタートが遅れたが、「進路の手引」や「夢ナビプログラム」を利用し、自身の進路について最低限度の説明の時間をとった。実際のオープンキャンパスには行くことができなかったものの、ウェブを利用し「大学研究」も行った。 2. 2学期には学年団教員がそれぞれ、自分が高校時代にどのような進路を考えたかを話す時間を3時間とり、生徒たちに語りかける時間をとった(『教員による進路ライブ』)。 3学期には高校3年生が自分の直近の進路体験を語る「進路ライブ」を、教員との対談風に実施。各教室に生中継し、テレビ番組のように視聴した。代表生徒が、高3生に直接質問するコーナーも作った。また、最後の仕上げとして、生徒同士による「ピアカウンセリング」を実施。匿名で各自の困りごと・悩みを投稿し、それに対して同学年生徒が匿名で回答するという、初めての試みに挑戦した。 3. 広い意味での進路=人としてどのように生きるかについても考える時間を設けた。顔面に障害を持つ子どもが学校で成長していく映画『ワンダー 君は太陽』を鑑賞。また中東地域での報道に携わるジャーナリストを迎え、「戦火の子どもたちに学んだこと」というテーマで講演を聞いた。 4. 同様に、同じ高校生として主に環境問題を通して社会と関わるBlue Earth Project 参加メンバーの活動報告も聞き、環境問題を考えると同時に、先輩たちがどう考えてこのような活動に参加するのか、生き方という視点でも学ぶことができた。	A	1. に関して コロナ禍の中、例年と比較して最も手薄になったのが進路関連の説明や指導であった。実際のオープンキャンパスに参加できないのはもちろんのこと、その他中学生とは違う進路上のルールや情報が量的にも不十分であった。またスタート自体も遅れたため、生徒が進路の事を具体的に考え始めたのが2学期以降となってしまった。コース選択、科目選択に影響が出ないか、今後注視していく必要がある。 2. に関して 教員が進路についての自身の体験を語る時間が、彼女たちにとって何らかのヒントになっていることを願うが、このように教員が単に指示をすただけでなく、思いを語りかける時間は今後とも重要であろう。 3./4. に関して テーマが何であれ、人間として大切なことはそれほど多くはない。自分を大切に、そして周囲の人・他人を大切にするという、当たり前のことを当たり前と考えられる人間に育ててほしい。そのために、狭い枠にとらわれず、映画・講演、ワークショップなどあらゆる機会をとらえて、それぞれの「人生の課題」を考えていくよう、励ましを与えていくような企画を工夫していく必要がある。
学年行事	校外学習	・教室を離れ、のびのびと社会に触れる。 ・特に高校から入学してきた生徒たちが、在校生と知り合える機会をできるだけ確保する。	コロナ禍で、実施が危ぶまれていたが、秋に奈良・東大寺周辺の校外学習を実施。前半は全員で東大寺を見学。後半は各グループで周辺の寺院、神社などを見学した。	B	雨の場合、例年はバスに避難し昼食をとっていたが、駐車スペースが確保できないため、昼食を東大寺近くのレストハウスで全員でとることとした。実際に当日はかなりの雨が降り、レストハウスで温かい食事をとれたことは結果としてよかった。

2020年度 学校自己評価(高2) (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高校2年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	「尋ねよ、さらば見出さん Look for and you will find」	目標は教室と廊下に掲示。また、学年集会、朝終礼、HR等の機会や、学年だより等の配布物を有効に使い、折に触れ思い出させ、実践を促す。	B	さまざまな場面で、もう少し、主旨を理解させ、浸透できるように啓発した方が良かった。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度当初に指導方針を明確にし、具体的な体制を確認する。教員一丸となって取り組む。	1. どのような取り組みにも、学年の教員全員が協力して取り組む。 2. 生徒の様子を常に見守り、生徒としっかりと関わる。 3. 学年の教員の間で、常に生徒の情報を交換し合う。 4. クラスによって指導に違いが出ないように、基準の確認を怠らない。 5. 保護者との信頼関係を深める。気になることは連絡し合える体制を作る。	B	3学期以降は、毎週の学年会議で、生徒情報の共有ができたことは、非常に良かった。指導事項に対しても、協力して取り組めた。 保護者との協力関係も電話・メールにおいて、ある程度築かれている。

				6. 週に1回の学年会議(生徒情報)で、日々の生活面の情報交換を実施する。		
学習指導	高校2年生としての基礎学力の定着と進路に向けた活動を通じた学習意欲の向上	高校2年で必要な学力を定着させ、さらなる学習意欲の継続・向上を促す。 自主的な学習ができるように促していく。 進路に向けて具体的に取るよう、さまざまな情報を与える。 Classiを活用し、ポートフォリオを作成する。	1. 朝礼前の5分を「学びのとき」とする。3年日記を利用し、常に日々のことを記入させる 2. 全員受験の実力考査は年に3回、スタディサポートを年2回、GTECを実施する。 3. 英語検定・漢字検定も取り組む。 4. ポートフォリオの活用のため、長期休暇ごとに課題を配信する。 5. 長期休暇中も必要な講習を実施する。 6. 土曜日の3時間目の課題学習では、自学自習の課題を用意する。 校内予備校の受講者は、土曜日3時間目及び月曜日の放課後講座を受講する。 7. 面談等で、個々に応じたきめ細かい指導を行う。	B	コロナの影響で、十分な活動はできなかった。1学期前半はClassiによる、授業フォローを実施した。 1. 学びの時は、3学期からスタートし、健康観察と自学自習が中心となった。 2. 1学期の実力考査は中止となり、スタディサポートも1回は自宅受験とした。 3. 英検は各自で受験地を選ぶようになった。漢検は学校で実施した。 4. 5. は一部しか実施できなかった。春期講習は実施できた。 6. 7. は学校再開後も短縮授業等であったため、できる範囲で実施した。	
総合探究	震災・進路	1. 進路を意識した志望理由書や自己推薦書の作成を実施する。進路選択・オープンキャンパスを通して、進路選択を探る。 2. 震災を学び、阪神淡路大震災から東日本大震災までを幅広く学習する。 3. Blue Earth Projectの活動を通して環境問題、持続可能な社会(SDGs)を学習する。	1. 志望理由書マスターノートをもとに、段階的に志望理由書の書き方を学び、講演会を挟んで論述テストを2回実施する。 2. 進路実現のために、進路選択・オープンキャンパスへの参加・学問研究の講習などを計画する。 3. 人と防災未来センターへの探究活動を実施し、震災映画や講演会によって、防災意識を高める。 4. Blue Earth Projectへの参加を希望する生徒に募集する。グループごとに、テーマを設定し、さまざまなイベントで発表する。	B	1. 総合探究の時間をうまく利用し、系統立てて取り組んだ。講演を挟んでのリライトは効果があった。 2. オープンキャンパスへの参加はリモートが多かったため、なかなか参加できなかったようだ。 2学期に学問研究・大学説明会、3学期に大学入試情報講演会および校内進路説明会を実施できたのは良かった。 3. 人と防災未来センターは、全員では行けず、夏休みの課題とした。良く学んでいたようだ 4. イベントが軒並みできずにいたが、東京湾大感謝祭では、リモートで参加した。	
学年行事	1. 校外学習 2. 修学旅行	1. 臨時の校外学習「古都・京都の魅力を堪能する」 2. 震災学習および東北の文化・自然を学ぶ。	1. 京都のエリアを指定して、グループで散策する。事前学習で計画表を作成させる。 2. 東北の自然・文化に触れ、さらに事前学習を通じた震災学習を中心に、現地の状況を把握する。	B	1. 京都の散策は、興味をもって楽しく散策できたようだ。 2. 中止・代替旅行の沖縄も中止。非常に残念な結果となった。	

2020年度 学校自己評価(高3) (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	目標とする具体的な実践内容	評価	改善策・向上策 ※実際の実践内容のまとめ
高校3年	学年目標	学年の目標の理解と実践	「愛」	1. 目標は教室と廊下に掲示する。学年集会・朝終礼・HRや、学年だより等の発行物を有効に使い、折に触れ思い出させ、実践を促す。 2. 身近な友人と過ごす際にはもちろんのこと、学年の仲間と共に学校生活を送っていることを意識させ、目標を礎にした問題解決を促す。特に、自分の進路が決定してからの言動に配慮が必要だと働きかける。	A	1. 生徒たちの思いやりのある態度を目にする場面は、年々増えていった。学年目標は生徒全員が理解をし、心に留めることができた。 2. この目標は様々な場面で形を変え実践が可能であったため、進路決定後の仲間への配慮や自分磨きを促すためにも活用した。卒業後もこの目標を大切にしていこうと働きかけた。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止に関わる対策の場面でも有効な目標であった。

	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	方針を明確にし、具体的な体制を実践する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 何事にも学年の教員が一丸となって取り組んだ。行事運営、生活指導、風紀指導、学習指導などの方針を常に共有して実行する。 2. 生徒の動向に常に気を配り、生徒と密に話す。 3. クラス、授業、クラブ、行事等の場面での生徒の情報を積極的に集めて共有する。 4. クラスの状況に合わせ、担任の方針を尊重しつつ、着地点に大きな違いが出ないように指導を続ける。 5. 学校と保護者、保護者間の連携につながる場面を大切にす。気になることは連絡し合える体制を作る。 	B	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緊急事態宣言が発令され、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う様々な対応が必要な中、臨機応変を心がけ、協力して学年運営を行うことができた。 2・3.入試制度の変化や新型コロナウイルス感染症への不安がある中、落ち着いて学校生活を送ることができるように、そのときの状況に応じて対応することができた。 4.風紀指導において、基準の確認や全体注意は怠らなかったが、実際には風紀面の指導が生じる場合があった。改めたい。 5.努力を続け、成果が上げられた。今年度の急な変更や設定によって来校を求める場面でも保護者の協力的な対応が多々あった。Classi の活用により情報共有が深まったが、全員登録には至らず改善が必要である。
	学習指導	高校3年生としての学力の定着と学習意欲の向上	高校3年で必要な学力を身に付け、学習意欲が継続し向上するよう促す	<ol style="list-style-type: none"> 1. 朝礼前の5分を「学びのとき」とする。 2. 放課後や長期休暇中に講習を行い、学習意欲の高い生徒に対応する。 3. 検定試験の受験を推奨する。GTEC（全員）、漢字検定、英検の受験案内などを実施する。 4. 各学期に生徒面談、夏休みに三者面談を実施し、個々に応じたきめ細かい指導を行い、モチベーションや持続力が高まるよう働きかける。 5. ポートフォリオを、日常的に Classi を用いてまとめさせる。これまでにまとめた資料を大学入試に必要な場面で生かすように指導する。 6. 土曜日3限の課題学習では、「高校生のための学びの基礎診断」対応の一つとして自学自習型の課題冊子に取り組む。自主的な学びの時間とするため、教材の管理や運営についても生徒主体となるような工夫をする。また、同時開講の校内予備校やミカエル国際学校のスクールアシスタントにも積極的な参加を促す。 7. 学習への取り組みの一つとして自習室の利用を促す。 	B	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校再開後は、公共交通機関の混雑を避けるため、早く登校することがないように、朝礼時刻に合わせて登校し、登校後は、ソーシャルディスタンスを保って手洗いをするなどの時間が必要であったため全員そろっての「学びのとき」は実施せず、教室に入り健康観察入力後、各自で必要な自習をすることとした。 2. 1学期の平日補習は、放課後は速やかに下校する時期であったため実施できなかった。夏休みの補習も内容と回数を絞ったうえで必要な回数を行った。2学期の平日補習は目的に合わせて講座を設け、前半と後半の2回に分けて実施した。冬休みの講習は期間が短かったため実施しなかった。受験継続生徒には個々に課題の確認をするなどして対応した。状況に応じて設定したが、公的な模試の全員受験もかなわなかったこともあり、受験生としての意識を持たせるためには、改善、工夫する点は多々見つけられるであろうと思う。 3. 1学期実施のものは延期により日程が変更されたものもあった。進路を決める要素にもなり得るため、積極的な受験を促したい。また、指定校推薦や松蔭特薦で早い時期に進路決定した生徒には秋以降の受験を必須課題として設定した。 4. 学校再開後すぐに三者面談を実施した。夏休みにも通常通りの三者面談を実施した。生徒面談は必要に応じて回数を決めず実施した。生徒、保護者の不安を軽減するために早い段階の保護者面談や必要に応じて行った生徒面談は有効であった。 5. 高2の学年末から高3の新学期で活発に取り組みたい課題であったが状況が許さず、促すことまでしかできず、充実した仕上がりには至らなかった。生徒によっては、高1で用意した紙ベースのファイル整理によるポートフォリオを継続した。高2からClassi導入となったため、アナログとデジタルの併用となったが生徒はよく順応した。一人一人が充実したポートフォリオを作るためには、高校の早い段階からまとめ方も含めて、チャレンジを続けることを促すことが必要である。 6. 本来取り組むべき課題として用意した課題冊子は休校期間中の課題として活用した。実際には土曜日3限は実力考査、課題考査、GTEC、特別礼拝などが行われた。なお、受験までに十分な日程がとれないため校内予備校の開講は見送った。ミカエル国際学校のスクールアシスタントは中止となった。 7. 放課後の時間が利用できるようになってから、たくさんの生徒が利用した。2学期期末考査前にも利用者が増えた。

進路指導	目標の設定・学力の向上・希望する進路の実現	自分の適性を知り目標や進路を定められるよう働きかける 希望する進路の実現に向けて準備し努力し続けるよう促す	<p>1.進路説明会 4月に年間スケジュールを生徒・保護者に伝える。6、9月にも実施する。また、9、12月には共通テスト説明会も実施する。</p> <p>2. 進路調査 3回（4、7、9月）実施する。それも踏まえながら、随時、個人面談を行い、生徒一人一人の希望進路や学習状況を把握し、改善点などについて指導する。</p> <p>3. 実力考査 全員受験の実力考査（英国）を4、5、9月に実施する。英国以外の科目は希望者が受験する。7、10月には、希望者対象の実力考査も実施する。</p> <p>4.校内オープンキャンパス 校内で、5月に松蔭大の学科説明会、および、外部大学・短大・専門学校の入試説明会を実施。他に、看護医療系進学ガイダンスも行う。</p> <p>5.小論文指導 入試で小論文が必要な生徒の調査をし、学年団で分担、指導する。5月には希望者対象の小論文模試を実施する。</p> <p>6. 指定校推薦決定者への指導 主に自分の進路に関する本を読んで、レポートを作成、提出するよう、指導する。指定校進学予定者が必要な場合、特別な補習を実施する。</p>	A	<p>1.4月の学年集会が実施できなかったため、進路説明の動画を配信した。動画配信の前に「進路の手引き」を郵送した。6月に実施分は7月末の1学期終業式後に実施した。9月実施分は8月の始業式に実施した。可能な限り、通常の流れが保てるように進路説明会を実施した。共通テスト説明会は7、9、12月に実施した。</p> <p>2.2回(4月(郵送)、9月)実施となった。もともと入試に関する変化があることを承知していたことや早い時期に三者面談の実施があったことで、2回実施だったが特に問題はなかった。</p> <p>3.4月実施分の実力考査は休校中のため実施できなかった。5、9月実施分は学校再開後の日程の都合により、いわゆる業者の模試の活用ができなかったため、校内で作成した試験を実施した。5月分(実際は7月実施)は追加科目として数学、化学も実施した。希望者対象の実力考査は家庭での取り組みも含め、業者の模試を7、8、9、10月に実施した。</p> <p>4.5月実施分を6月に大学別にZoomで実施した。分散登校の時期であったため、家庭で参加する生徒と学校に残って参加する生徒がいた。学校では、iPadを貸し出した。また、松蔭大の学科説明会も6月下旬から7月上旬にかけて実施した。看護医療系進学ガイダンスは実施できなかった。また、6月には、進学面接・マナー指導をZoomで実施した。</p> <p>5.必要に応じて対応した。時間に余裕を持って申し出ることができるように早い段階での指導が必要であった。大学入試に活用できるよう1学期の実施が必要であったが、総合学習で十分な取り組みができなかった。自宅での課題学習として、ワークブックに取り組み、小論文テストを実施した。生徒は積極的に取り組んだ。</p> <p>6.3本を3冊読んでそれぞれのレポートを作成する課題を課した。生徒は比較的熱心に課題に取り組んだ。他に、英語が重要な生徒へは英検の受験を促した。また、理系、文系問わず、学力に心配がある生徒には特別な課題を課した。</p>
総合学習	主体的に考え判断し伝える力の養成	他者の意見を尊重できるようにする 主体的に考え判断し伝える力を養う	<p>1.文章の書き方のルールを知り、自分の意見を明確に他者に伝える。</p> <p>2.これまでの総合学習の集大成として、ディベートを通して他者と意見交換を行い、それを踏まえて自分の考えを持つ。</p> <p>3.環境問題に関する諸問題について学び、自分の考えを深める。講演会も活用する。</p>	B	<p>1.進路指導の5に述べた通り。</p> <p>2.小グループでの話し合いは実行しにくいと判断し。ディベート学習は実施しなかった。十分に学年行事やホームルームの時間がとれないこともあり、卒業に向けての様々な取り組みを行うこととした。その一つとして「モザイクアート」の制作を実施した。</p> <p>3.10月にSDGsや気候変動や生物多様性やジェンダーの問題等についてZoomで講演を聞いた。11月には気候変動や生物多様性についての動画を視聴した後、12月に実際に学校に講演者を招いて講演会を実施した。直接話を聞く機会が得られたことは良かった。</p>
学年行事	各学年行事・学年の取り組み	生きた学びの場とする	<p>1.春の遠足</p> <p>2.3学期のプログラム</p> <p>○必須活動</p> <p>(1)進学指導(進学補習含む)</p> <p>(2)Blue Earth Project</p> <p>(3)探究レポートプログラム</p> <p>(4)体験プログラム(生物多様性の動画視聴)</p> <p>○有志参加のプログラム</p> <p>(1)図書館司書体験</p> <p>(2)ゴルフ体験実習</p>	A	<p>1.布引ハーブ園に行く予定であったが、中止となった。</p> <p>2. 必須活動の(1)は、引き続き受験をする生徒が受講した。共通テスト、一般選抜対策を実施した。進路が決定した生徒は、(2)～(4)のいずれかを選択することとした。生徒たちは必須活動、有志参加のプログラムとも、各自が選択したプログラムに熱心に取り組んだ。全ての企画が今後の深い学びのきっかけとなったのではないかと期待している。なお、ゴルフ体験実習は中止となり募集には至らなかった。</p>

校務分掌の部

2020年度 学校自己評価 (校務部・教務部) (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	次年度への改善策・向上策
教 務 部	教育課程	教育課程の作成	1. 基礎的な学力を身につけさせる。	わかりやすい授業をめざすだけでなく、小テストの繰り返し、定期考査後の補講(学力下位層への指導)などによって、基礎学力の修得に力を入れた。 中学1年生・高校1年生はICTデバイスを個人所有として導入し、生徒のよりよい授業理解のために工夫をした。 コロナによる休校期間には、Classi や Youtube 等を活用してオンライン在宅学習を計画し、学びの機会をつくった。	A	突然の休校に向けたオンライン在宅学習について、様々な整備をすすめる。 引き続き授業改善に努めると共に、授業についていけない生徒への学力指導について新たに検討していく。中学指導要領一斉改定に伴い、シラバスも中学は全学年新様式とし、新指導要領の3観点を意識して、授業づくりに取り組む。
			2. 生徒の学力や進路に応じた、きめ細かい指導を行う。	英語・数学などで中2以上では、グレードクラス、特別クラスを編成した。高校では選択科目を設置して進路に応じた指導を行った。中1では、数学の能力・意欲が高い生徒対象に特進講座を設定した。 英検対策講座は水曜日、高校2・3年生対象校内予備校は月曜日と土曜日に実施した。(中2・中3の放課後アドバンスト塾は不成立。) 2020年度はコロナ禍により長期休暇中の講習はほとんど未設定であった。	B	2018年度より6日制となり、様々な講座を設定している。 コロナ禍の状況を見ながら、改めて2019年度の反省を踏まえ、各学力層に応じた講座の設定、内容の一層の改善をはかる。 特に2学年になるストリーム制について、各ポリシーを意識した適切な指導を行う。
			3. 生徒の学力を正確に把握し評価する。	学力把握のため、定期考査以外に実力考査を学期ごとに年間3回計画したが、1学期はコロナ禍のため実施できなかった。 学習意欲の向上をはかるため、英語検定や漢字検定などを実施した。 中学3年生は全国学力・学習状況調査は中止になったが、基礎学力判定試験は実施できた。	B	実力考査や定点観測から把握できる生徒の状況に応じて、よりよい対応を考えていく必要がある。また、中学校指導要領改訂全面実施に向け、適切な評価が出来るよう、各教科での準備を促していく。
			4. 体験的・問題解決的な学習を展開する。	総合的な学習・探究の時間で自主的な調べ学習、体験的・問題解決的な学習を展開した。また、主体的な学びについての研究を進めてもらうよう促した。 高2・中3修学旅行や留学プログラムなど、校外での様々な体験・事前学習等の機会を計画したが、コロナ禍のため中止になった。	B	総合的な学習の時間の取組において、生徒が主体的な学びを実践できるように各学年で改善を加える。主体的な学びについては引き続き研究を進めながら、具体的実践を促進していく。特にICTデバイスが導入される学年では、積極的な活用をすすめる。
研修	教員の研修	教員の資質を向上させるため適切な研修を行う。	職員室の中央掲示版に外部で行われている授業研修を掲示し、教員に各自で学外の研修会に積極的に参加するように促した。また、MetaMoji Classroomの教員用講習会を全4回実施し、その動画をYoutubeにもアップした。	A	主体的な学びを実践した研究授業やICT機器を利用した授業研修の校内設定を次年度も検討する。また、外部研修会にも積極的に参加することをより奨励する。さらに、Findアクティブラーナーを継続して学校導入し、周知を図り、視聴をすすめる。	
国際理解教育	国際交流と国際理解	適切な国際交流行事を行い、他国の歴史や文化に対する理解を深めさせる。	1学期には、ニュージーランドのセント・ピーターズ校との春季短期交換留学も聖明女子中学校の来校も新型コロナウイルスの影響により中止された。夏休みのセント・ピーターズ校への生徒派遣も、信明高校・聖明女子中学校への派遣も中止された。セント・ピーターズ校と聖明女子中学校とペンフレンド交流を行い、親交を深めた。 3学期には、信明高校からの来校が中止されたが、信明高校とオンライン交流を行い、親交を深めた。	B	いつも行うプログラムが新型コロナウイルスの影響により中止された。来年度に向けて、来年度中止される場合は、国内プログラムを準備する。ニュージーランドのセント・ピーターズ校や韓国にある姉妹学校(聖明女子中学と信明高校)とも、交流は図るよう改善を進める。	
芸術文化教育	芸術鑑賞行事	適切な芸術鑑賞行事を設定し、実施する。	2020年度は和太鼓鑑賞を企画していたが、新型コロナウイルス感染症に伴う対応として中止となった。2020年度に予定していた和太鼓鑑賞は2022年度に再度企画することとなった。	D	来年度は演劇鑑賞がテーマの年となり、「ドン・キホーテ」の鑑賞を企画している。感染症対策のため、来年度は神戸文化ホールの大ホールを利用する。	

	学校行事	適切な学校行事の設定	さまざまな学校行事において、生徒の運動能力や自主性を高めることをめざす。	運動能力向上・自主性向上のため、様々な学校行事を計画したが、コロナ禍のために中止または変更を余儀なくされた。体育祭は中高別に、球技大会は2学年ずつに時間帯を分けて実施し、文化祭は文化部発表会という形で各部実施した。中1 キャンプ・中2 英語研修・中3 九州修学旅行・高2 東北修学旅行・バザー・冬休みスキーキャンプ等は中止とした。	B	感染症対策に留意しながら、可能な限りの行事を実施できるよう検討する。ただし、6 日制となったこともあり、年間の各種行事のバランスを検討することも必要である。
--	------	------------	--------------------------------------	---	---	--

2020年度 学校自己評価（校務部・生徒部）

(A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
生徒部	生活指導	服装規定の遵守	・正しく制服を着用し、頭髪も自然のままにしておく。	・担任・学年を中心に指導する。その上、違反者の生徒を生徒部でも指導する。 ・頭髪については「長い髪の毛をくくるよう心がける」の指導を学年中心に積極的に行う。 ・状況に応じて、服装検査を実施する。	B	
		登下校のマナー	・交通ルール及び公共のマナーを守らせ、寄り道をしないようにさせる。 ・あいさつの励行	・日常的に登下校指導の実施。 ・歩きスマホをしないなど具体的な内容の指導の徹底をする。 ・関係機関と連携しながら補導活動（バス列車補導も含む）を定期的実施。 ・教員が積極的にあいさつするよう心がける。	B	
		紛失・盗難の撲滅	・教室の戸締めの徹底及び貴重品の管理を徹底する。	・移動教室の際は、戸締めをさせ、貴重品（携帯電話や財布）は担任が預かる。クラブ活動における貴重品管理を各部徹底する。また、校内を巡回し紛失・盗難を未然に防ぐ。	A	
		各種講演会の実施	・スマートフォン、携帯電話の正しい使い方を身につける。 特に、インターネット、SNS の利用について正しい知識を身につける。 ・薬物に対する正しい知識を身につけ、自分自身の身を守る。	・「ソーシャルメディア」、「薬物乱用」に関する講演会を年1回開きそれぞれの持つ危険性をうながす。 ・スマートフォン・携帯電話を朝礼で預ける。SNS などの不適切な書込については、発見次第随時指導する（スクールメディアにも依頼）。	B	
美化指導	美化指導	校内美化・清掃の推進	・トイレ・教室の使用マナーの向上 ・毎日の清掃活動の徹底 ・各行事の美化委員の役割分担と大掃除の実施	・使用マナーを呼びかける。 ・毎日の掃除をきちんとおこなう。 ・大掃除では、各クラスの役割分担を美化委員が考える。 ・行事のとき、美化委員は仕事を分担し、美化に努める。	B	
		ゴミの減量化・分別の徹底・リサイクル活動の推進	・ゴミの減量化 ・ゴミの分別 ・ペットボトルのリサイクル活動の推進	・できるだけゴミを出さないよう呼びかける。 ・どうしても出るゴミは分別する。燃えるゴミは小さくして捨てる。段ボールや古紙などは倉庫へ運びリサイクルに役立てる。 ・教室のペットボトルは掃除当番がゴミステーションに持って行き、処理する。 ・美化委員はリサイクル処理をおこなう。	B	
生徒	生徒会指導	生徒会活動の活性化	生徒会活動に興味・関心が湧くようそれぞれの活動に工夫を凝らす。	・あいさつ運動の継続。 ・マナーアップキャンペーンやあしなが奨学募金など外部のボランティア活動への積極的な参加。	B	
学校行事の充実		体育祭・文化祭をよりよいものに変えていく。	・体育祭運営をよりスムーズに行う。 ・競技について検討し、グループ内での一体感を持たせる工夫をする。 ・文化祭はテーマに基づき、それぞれの舞台演技・展示の充実を図る。 ・その他学校行事において積極的に参加するとともに生徒会としても生徒の自治能力を向上させる。	A		

部		各委員会の積極的な活動	評議・執行・美化・保健・特別の各委員会に目標を持って生徒主体の活動を目指す。	・評議委員会等の連絡が円滑になるよう工夫する。 ・ゴミの分別を確実に行う。 ・生徒会関係冊子の充実に努める。	B	
生徒部	安全教育	防火管理体制の整備 自衛消防の努力	年3回の避難訓練の実施を目標とし、教職員および生徒の防災火意識を高める。	・予告しておこなう訓練と抜き打ちでおこなう訓練とを行い、どちらの場合でもきちんと避難できるようにする(地震発生想定訓練を含める)。また、教職員対象に火災報知器訓練を行い、各教職員が対応できるようにする。 ・南海トラフ大地震を想定した、防災教育を開始する。	B	
		校内危機対応意識の啓発 不審者への対応	それぞれの役割を把握し、不審者対応講習を行う。	・教職員は、校門指導・下校指導と連動し、不審者から生徒の安全を確保する。	A	
		全校生徒(特に自転車通学者)への安全意識の啓発	全校生徒を対象に年1回の講習を行う。	・自転車通学者リストを作成し、交通安全講習会を行う。講習会は、啓発DVDを使用し、登下校時の交通安全意識を高める。	A	
		応急処置の意識の啓発	緊急時に正しく的確な応急処置ができるようになる。	・年一回、AEDを用いた心肺蘇生法の講習会を行う。継続的に講習会を行うことで、より新しい情報を取り入れ、各教職員の応急処置の技術・知識を向上させる。	B	
	性教育	実態に応じた性教育の推進	性に関する問題・現状を知り、思春期の心身の発達を正しく理解する。	・性について様々な角度から継続的に学び、性に対する考えを深める機会として、中高一貫の6年間に年1回は性教育を実施する。中学1年・2年・3年生、高校2年生では性教育講演会をおこなう。中学2年生、高校1年・3年生では、保健の授業で取り扱う。また、総合学習や他教科とも連携し、性についての正しい知識の浸透を図る。	A	

2020年度 学校自己評価(校務部・宗教部) (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
宗教	日常礼拝の実施	講話者当番	各学年等にお話の当番をスムーズに割り振る。	・学校行事等の時期も考慮に入れ、副校長や当番学年へ事前連絡をし、担当日を決めてもらった。 ・体育祭後に写真部の協力によりメモリアルスライドショーを行った。	A	教員のみならず、職員や松蔭に関わる方々にもお話ししていただけるようにしたい。
		奏楽者当番	学校行事や式典の奏楽者を手配し、日時および聖歌番号を事前連絡する。	・学校行事や式典が決定次第、手配した。 ・できるだけ早くに聖歌番号を決定し、連絡するようにした。	A	奏楽者への事前確認を直前に入れるようにする。
		生徒の参加に関する指導等	定時から落ち着いて礼拝が始められるよう指導する。	・礼拝前に各自、聖歌等の準備をし、心を落ち着けて礼拝を始めることができるように指導した。	A	早めに講堂へ集合し、静かに礼拝を待つという体制は、できてきたように思われる。
		日常礼拝の見直し	日常礼拝の回数を少しでも現在より増やす。	・かつては毎朝おこなわれていた礼拝のメリット、デメリットを考え、よりよい礼拝の形と回数の検討を重ねた。	C	来年度、日常の学校生活の様子を見つつ、礼拝の回数を増やせるように検討を今後も続けて行く。
	特別礼拝の実施	説教者の選定	それぞれの時点でふさわしいと思われる方を選定し、依頼する。	・それぞれ、わかりやすく有意義な話をしていた。いただいた。	A	幅広い分野の方々に依頼できるよう、普段から情報を集め、関係をつくっておく。
		オルガニスト・聖歌隊手配	活動への参加が決まり次第、正式な依頼をする。	・参加が決まり次第、正式な依頼を行った。使う聖歌等についても早い時期に決めて連絡をした。	A	連絡を密にとって、これからも連携していきたい。
		式次第・式文の作成	説教者や聖歌隊と連絡を取り、式次第・式文をチャプレンが作成・準備した。	・各々の式にふさわしい選曲、聖句やお祈りなどを選択できた。	A	滞りなく準備ができた。
		礼拝形式	様々な形式での礼拝を行っていく。	・1学期・宗教週間の特別礼拝は、密を避けて学年別の礼拝をおこなった。お話は神戸松蔭女子学院大学のチャプレンに分担していただいた。東北の修学旅	A	コロナ禍での変則的な礼拝であったが、それぞれの礼拝を守ることができたのはよかった。次年度以降もどのような形式での

			<p>行をひかえている高校1・2年生のお話は福島県双葉郡大熊町での被災者である木村紀夫氏に依頼した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期・宗教週間の特別礼拝は、密を避けて中高別で行なった。お話は日本キリスト教海外協力会・会長の畑野研太郎先生に依頼した。(テーマ：ハンセン病と風評被害) ・クリスマス特別礼拝はキャンドルサービスなしの式で行い、日本キリスト教団・龍野教会の車田誠治牧師にお話を依頼した。 		<p>礼拝がいいのか検討を続けていく。</p>
その他礼拝	参加自由礼拝の企画	親しみやすい集まりを持ちキリスト教に興味を持ってもらう。	朝の礼拝、ヌーンサービス、お誕生日礼拝、逝去者記念礼拝、震災記念礼拝・震災記念の祈りを行った。	B	これからも生徒へ呼びかけ、参加を促していきたい。新たな企画や改革も行いたい。
宗教部企画の諸行事の実施	各種プログラムの企画立案	生徒が参加したくなるようなプログラムを企画立案し、生徒に提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の宗教週間中は、放課後の企画については、密を避けるということで行わなかった。 ・2学期の宗教週間中は回数をいつもよりは減らして(2回)、レオノラチャペルでクリスマスリース作りを行った。 ・にじ作業所のパンの販売を実施した。 ・図書館との協賛でブックリサイクルを行った。 ・聖ミカエル教会をはじめ外部の教会バザーは中止となった。聖ミカエル教会バザーの代替行事である「ミカエマーケット」(物品販売のみの会)にの参加者を募り実施した。中高生11名が参加した。 ・2学期の宗教週間には近隣の教会の牧師を招いてクラス講話をレオノラチャペルで行った。 ・1月17日の震災の日を前に、1月9日(土)の放課後に近隣の記念碑を見て回る「震災記念碑めぐり」を行い、中学生2名が参加した。 	B	コロナ禍の中、例年の活動はできなかったが、一部再開できてよかった。今後も情報宣伝活動をより積極的に行い、多くの生徒の参加を促していきたい。また、新たな企画についても立案・開拓していきたい。
	オルガンレッスン	オルガンレッスン生を適宜補充し、定期的にレッスンを実施していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期のレッスンおよび、レッスン生補充のためのオーディションは、コロナ禍のため行うことができなかった。 ・レッスン再開後は、放課後または昼休みに講堂で行うことができた。 ・聖ミカエル教会でのレッスンは、コロナ禍ということで実施できなかった。 ・レッスン生には2学期と3学期に各1回ずつ礼拝奏楽奉仕をしてもらった。 	A	<p>コロナ禍で感染予防対策をしっかりとった上、再開できたのはよかった。</p> <p>チャペルのオルガンの購入を本格的に考えていく。(卒業記念品として費用を積み立て中)</p>
各奉仕活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホームきしろ荘の訪問 ・震災支援バザーの開催 ・災害支援キャンプの開催 ・にじ作業所の支援パン販売の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになるプログラムを考える。 ・苦しい状況にある人々を忘れない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月に行っていた喫茶ボランティアは、コロナ禍ということで中止となった。 ・12月にクリスマスの飾り付けボランティアは、先方の都合により実施できなかった。 ・「オープンスクール」の時に行っていたチャリティ売店は「オープンスクール」がコロナ禍で実施できなかったため実施できなかった。 ・春休みの「ワーク・キャンプ」はコロナ禍のため企画しなかった。 ・コロナ禍で販売場所が制限されたにじ作業所(パン工場なないろ)を支援するため3回の支援パン販売を企画したが、1回実施できただけで、2回は緊急 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・奉仕活動すべてが、新型コロナ感染症の影響により実施できなかった。 ・新しい訪問場所や関わり方について、今後検討していく。

			事態宣言発令のため中止となった。		
体験学習の実施	真生乳児院の育児体験	施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになるよう、プログラムを考える。	・1・2学期、土曜日の午後に実施したが、今年度はコロナ禍の中、すべて実施できなかった。	—	次年度からの再開に向けて今後も情報宣伝活動をより積極的に行い、多くの生徒の参加を促していきたい。
人権教育活動の実施	生徒向けの人権研修の企画立案	今の社会をとりまく諸問題について、的確に生徒に伝えることができるよう企画立案する。	・生徒向けと同様に教職員向けにも、コロナ禍の今、「ハンセン病と風評被害」を大きなテーマとして、教職員研修、生徒映画鑑賞を企画した。 ・生徒は密を避けるため、1学年ずつ3日間に分けて講堂で『あん』（元ハンセン病患者を題材にした映画）を鑑賞し、ミニ感想文を書いてもらった。また、事前には礼拝において人権に関するお話を人権主任にしてもらった。	A	コロナ禍、感染者やその家族へのさまざまな差別が叫ばれる中、感染症に関する認識の大切さを再認識するよい機会となった。 生徒からの感想も率直なもので好感触であった。今後もさまざまな啓発を続けて行きたい。
	啓発文書の作成	大切なことをわかりやすく伝えていく。	・人権講演会にあわせて講演会の予告を『チャペルニュース』に掲載した。 また、生徒のミニ感想文を機関誌『青谷』に載せ、紹介した。	A	今後もよりよい形で、啓発活動を続けて行きたい。
	教職員向けの人権研修の企画立案	教育を行う上で大切な人権感覚を養うことができるよう企画立案する。	教職員人権研修会として、10月13日（中間審査中）に国立ハンセン病資料館の職員、大高俊一郎氏を講師に迎え講演会を行なった。	A	コロナ禍、感染者やその家族へのさまざまな差別が叫ばれる中、感染症に関する認識の大切さを再認識するよい機会となった。
宗教教育に関するプログラム実施	様々な場面で行う宗教教育プログラムの企画立案	キリスト教に対する興味や関心を持たせるとともに、さまざまな人との関わりに共感することができるようなプログラムを企画・立案する。	・例年、8月5日～6日に神戸教区主催の広島平和礼拝に参加するプログラムを企画していたが、今回は中止となったため、聖ミカエル教会にて「広島平和の祈り」を企画し、参加生徒を募って行った。高校生2名が参加した。 ・2学期・宗教週間中、広島女学院が行っている核廃絶の署名活動を支援するため、全校生徒に署名用紙を配布し協力を呼び掛けた。	A	少しでも多くの生徒が参加してくれるよう、今後も情報宣伝活動を積極的に行い、生徒の参加を促していきたい。
啓発文書の発行	『青谷』の発行	キリスト教に関連する意見や思いだけでなく、幅広く教職員・生徒の思いを収集し編集していく。	・今年度末での退職者をはじめ、さまざまな方々に広く原稿依頼を行った。 ・生徒の感想なども取り入れた。	A	概ねスムーズに原稿が集まった。宗教部の活動を広く教職員で共有できるよう、今後も務めていきたい。
	『チャペルニュース』の発行	定期的に発行し、宗教部の行事や活動を報告する。	活動写真などもおりませ合計7回、発行した。	A	活動報告だけではなく、広く様々な記事を掲載し、親しみやすい刊行物としていきたい。
	「聖句」の教室掲示	教室掲示により聖書に親しみ、多くの箇所を紹介する。	・年間聖句および、6月から月1回の発行を目標に書道部に依頼し、合計8回、各教室と廊下、体育館、事務室前、バス道掲示板等に掲示した。 ・聖書の箇所の解説をチャプレンに依頼し、聖句と共に掲示した。	B	新型コロナウイルスの影響により、6月からの開始となった。また、3学期は緊急事態宣言の再発令により、部活動が原則中止となったため、予定枚数の掲示ができなかった。 今後も適切な聖句を選び、生徒に紹介していきたい。
関連諸団体との連携	献金・人的支援・その他	関連諸団体及び彼らが関わっている現場の状況を把握し、適切な支援を考えていく。	・東日本大震災の被災地支援（磯山みかんの会） ・海外の医療支援（日本キリスト教海外医療協力会） ・路上生活者の支援（路上生活ふれあいサークル・レインボー）へ献金をおこなった。	A	特別礼拝、クリスマス礼拝の講話者に関わる施設をはじめ、必要とされる場所に献金、人的支援ができるようにしていきたい。

2020年度 学校自己評価（校務部・総務部）

(A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
総務部	住所管理	個人情報の管理	住所等個人情報を正確に把握する。	年度初めに各担任を通じて住所等の確認を行った。変更の書類が来た際は写しを取り、ストックした。書類は事務所の担当が打ち込み、随時、総務部でチェックした。個人情報流出防止に細心の注意をした。感染症の影響で生徒の登校が不規則だったため、住所録の作成が遅くなった。	B	事務室から受け取った写しを整理する。 住所録作成時のミスがないようにダブルチェック体制をとる。
	校内施設	各教室の管理	教室の机・椅子の数等を把握する。	施設管理職員と連携し、不良品や修理の必要なものを適宜交換した。	B	全学年分を入れ替えることをめざして導入計画を立てる。 多数の机を移動する行事が終了した直後に教室の点検をする。
		空き教室の有効利用	放課後校内で行われている活動(部活動・補修など)を掌握する。 長期休暇中の教室利用を調整する。	通常利用一覧表と、月別の放課後教室利用一覧を掲示し、使用者に記入してもらった。利用頻度が高い場所については、校内イントラネットを活用して予約が重ならないようにした。電子黒板が設置されている教室の一覧を作成し、授業で使用できるようにした。長期休暇中については、事前に教室使用希望調査をおこない、調整した。	A	通常活動場所一覧の更新を定期的におこなう。 電子黒板が設置されている教室の一覧は、ほぼ利用されていないので、次年度は作成しない。 クラス数減少に伴い、長期にわたり使用頻度が低くなっている教室等の有効利用を検討する。
		施設使用状況の把握	校内施設の使用状況を各部署に連絡する。	月末に職員室、事務所、施設管理職員、守衛の4部署に翌月の使用状況一覧を配布し、周知をはかった。	B	校内イントラネット及び会議録によって、なるべく早い時期に各部署の利用予定を掌握する。
	不良箇所の補修	事務部・施設管理係との連携を心がけて速やかに対処する。	できるだけ早く施設管理職員に連絡を取るようにした。必要な場合には業者に修理を依頼してもらった。	B	定期的に、校内の点検・見回りをする。 各学年と連携し、早めに状況を把握する。	
情報機器管理	情報機器管理	パソコンの設定・管理を随時おこなう。 無線Lan環境を整備する。 ICT化について将来構想を検討する。	新職員室及び講師室のネットワークの管理をおこなった。 教職員PCの更新をおこなった。 ICT小委員会と連携し、ICT関連の将来計画を検討した。 生徒用及び教職員用のiPadを購入した。 ICT教材を導入した。	B	ネットワークのセキュリティ面で日常的に検証をおこなう。 デジタル機器の増加、システムの変更に伴い、係の体制を検討していく。特に次年度から新たにマルチメディア委員会が設置されることから、それぞれの管轄を明確化することが必要。	
管理・美化	校具・消耗品・清掃用具等の購入・分配	清掃用具・備品の補充、補修を適宜行う。	生徒の清掃に関わる品物を総務部が購入、必要に応じて分配した。	A	定期的に在庫の点検をして、計画的にまとまった量を購入することで、コストダウンに心がける。	
	事業系ゴミの排出	ゴミを分別回収する。学校を清潔にするように努める。	指定ゴミ袋に分けて排出した。古紙類・ペットボトルなどは業者に回収を依頼した。産業廃棄物などは業者にたびたび依頼して排出した。	B	紙類の無駄が出ないように工夫する。 ICTデバイスの活用により印刷を削減し、紙類の使用を減らす。 その他、ゴミの削減に努める。	
視聴覚機材	視聴覚機材の管理・購入	備品を管理し、計画的に購入する。	電子黒板のメンテナンスをおこなった。 必要な時に機材がすぐ貸し出せるよう視聴覚室を整理した。 不調の書画カメラの交換を取りやめ、タブレットの活用等、別ツールへの移行をはかった。	B	視聴覚室の整頓を徹底する。 次年度から新たに設置されるマルチメディア委員会と協力して、将来計画を検討する。 講堂の音響関係のメンテナンス計画を立てる。	
広報	ホームページ(学校の広報)	分かりやすく、情報を探しやすい内容になるように努める。 定期的に更新する。	各学年や記録係との連携をすすめ、学校行事など内容をできるだけ早く更新した。 情報を見やすくすることを心がけた。	B	学校活動の活発さをより効果的に発信する対策・方法を工夫していく。 SNSの活用を検討する。	
	ハンドブック(校内のルール・約束事の周知)	訂正ゼロを目指す。	各部署に原稿の作成(訂正)を依頼し、3月中旬に納入できるよう努めた。	A	変更点や追加点はハンドブックに関わるかどうか、その都度確認する。	
	学校報(一年間の学校の記録)	記録として分かりやすい内容にする。	1年間の正確な記録を集め、一学期末の発行に努めた。	A	写真等を積極的に活用する。 各学年に積極的に働きかける。	
資料	写真などのデータの一元化、資料の整理・保存	学年で撮影した写真のデータを集約する。また、資料を計画的に保存する。	写真データ収集を各学年に依頼した。 VHS テープを業者に依頼し、DVD で見られるようにした。	A	古い資料の整理を進め、系統的な整理に努める。 今後の資料の整理・保存についても検討する。	
総務・渉外	式典・学校行事	職員との連携をはかりつつ、会場等の準備を適切に進める。	設営等は職員にあらかじめ依頼内容を添付し、作業してもらい、終了後点検を行った。	A	設営作業がスムーズに行くように式典前の施設利用に気を配る。	
	バザー		感染症の影響で中止となった。			

	緊急連絡網の補い	休校などの緊急連絡が円滑に回るよう努める	各学期にテストメールを配信した。必要な場合、メールによる緊急連絡を実施し、未到達者に対しては、電話で連絡した。	A	配信エラーとなる者に対して、対処マニュアルを配布し、再設定をお願いした。
--	----------	----------------------	---	---	--------------------------------------

2020年度 学校自己評価 (校務部・進路指導部)

(A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策	
進路指導部	進	進路指導体制の充実	目標や夢を持つことと、目標達成に向けて努力していくことの大切さを伝える。	卒業生・外部講師による講話や高3生徒による進路ライブなど、生徒に考えさせる機会を作った。	B	その時々を生徒の実情に合わせた内容を検討する。	
			中高6年間のそれぞれの発達段階に応じ、進路指導部と学年が連携しつつ、体系的な進路指導を実施する。	各学年の進路指導部の教員を中心に、進路指導部の体系的な指導の実現を図った。	B	各学年の進路指導部員を中心に、部との連携を持って、年間計画を進めていく。	
	路	指	進学指導の充実	総合的な学習を利用して、学問・大学研究をし、高校卒業後の進路について早期から考える。	高1総合学習の時間をはじめ、進路学習を系統的に行った。中3や高2の総合の時間も生かして、継続的な進路学習を行っている。オンラインでのガイダンス等も活用した。	A	COVID-19の影響が続く中での効果的な進路研究の方法について検討する。
				実力考査の定点観測を行い、進学指導に生かす。	実力考査および、高校生のための学びの基礎診断(スタディーサポート)を実施した。	C	効果的な定点観測が難しい状況であり、アセスメントの整理を図る必要がある。
				実力考査の計画的な実施。	高校3学年の実力考査を、春の段階で進路指導部が、時期と業者を決めて学年に伝えた。2020年度は休校等の影響で実施できない回が生じた。	B	採用した実力考査が本校の現状に合っているか、常に点検していく。
				大学入試制度改革への対応。	情報収集に努め、生徒保護者集会で説明した。イントラネットを用いて教員への情報提供を行った。eポートフォリオの活用を呼び掛けた。	A	新課程入試に向けて引き続き情報収集と情報提供に努める。
	部	部	キャリア教育の充実	受験指導だけでなく、大学のさらに後の社会での生き方を考える機会を与える。	高1・高2のBlue Earth ProjectチームYではコロナの感染状況を考慮し、全国のBlue Earth Project参加生徒とオンラインミーティングをし、東京湾大感謝祭にもオンライン参加した。	A	チームYは高1からスタートするので、2022年度以降のYの活動の位置づけ・継続を早急に検討すべきである。
				社会や自然とのつながりを実感しつつ、その後の人生で生きていく力につながるような気付きの機会を与える。	高3のBlue Earth Projectでは環境破壊による生物多様性の危機をテーマに活動したが、コロナの感染状況を考慮して、動画制作に重きを置いた。	A	社会的にも評価を得て、ノウハウや協力先を構築しているこの教育活動を、今後も継続していけるように、各学年の教員も指導スキルを継承することが求められる。

2020年度 学校自己評価 (校務部・入試広報室)

(A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
入試広報室	生徒募集	オープンスクール	小学生・保護者が本校の教育活動を体験・見学することで本校入学を志望するようにし、併せて入試に向けての学習動機付けとする。	感染症のため中止		他校の説明会・イベントと日程が重複しないよう注意する。
		学校説明会	主に小学6年生保護者に対して入試の詳細について伝達し、併せて受験意志を固めさせる。	9~11月に3回実施し、本校の教育内容を的確に説明した。毎回、紹介する内容がかわるようにした。	B	2回目、担任教員・保護者の方・卒業生の話。3回目、元啓明学院 校長先生の講演会。
		授業見学会	授業の様子を見ていただく。	オンライン英会話など、松蔭独自の授業をご見学いただくようにした。	B	HPなどで、授業見学会を実施していることをより知っていただく。
	関連事項	クリスマスの集い	冬のオープンスクールのイベントとして小学生に本校のキリスト教主義学校としての雰囲気を感じてもらおう。	小学生のみなさんに楽しんでもらうことが一番の目的。そのために、事故がないように注意した。	A	演劇部を中心に、多くの生徒の活動を紹介した。小学生だけでなく中学生にも参加してもらう。
		入試結果報告会・学校説明会	6月の芦研模試会場で、松蔭での学校生活を知っていただくために説明会を実施した。	早い時期から松蔭に興味を持っていただき、オープンスクールにご参加いただけるようにする。感染症のため芦研模試は中止	B	ご参加いただいた方がお知りになりたい内容を的確に説明する。

	外部説明会	遠方にお住まいの方に、松蔭のことを知っていただく、興味を持っていただく。少人数できめ細かく対応する。	10月に宝塚・明石・西神南・阪神西宮・三田で実施。 通学方法や定期代など、より具体的な説明をした。	B	明石での実施をはじめた。 日曜日、土曜日に実施した。
	校内個別相談会・学校見学会	入試直前の12月に校内での説明会を企画し、受験生・保護者への最後のアピールを行い、志望校未定者を志願、受験につなげる。	個別ブースを設置。	B	この時期には併願校をご検討の方がいらっしゃるのにつづけていきたい。
	学外のブース式説明会	主に保護者の方からの質問に効果的に答え、ご来校いただけるようにする。	疑問・質問に対して的確な説明を心がけた。 感染症の影響で多くの説明会が中止になり、開催方法も変更になった。	B	保護者の方と直接話す機会を増やして、現場教員の「顔」が見えることをより可能にしていく。 多くの説明会で来場者数が減ってきている。
	学外の講演形式説明会	受験意欲を喚起し、校内での様々なイベントへの参加を促す。	3月に「神戸東地区4校合同説明会(神戸海星・甲南女子・親和・松蔭)は中止、塾主催の説明会に参加。	B	特に他校との合同説明会では、松蔭の特色が際立つプレゼンテーションを目指した。
	E L S 講座	2ストリーム制の設置に伴い、校内で小学生対象の英語講座を設置した。	2つのレベルを設定し、幅広くご参加いただけるようにした。	A	講座参加児童の入学も増えてきた。より参加者数を増やしたい。
	個別の学校案内	個別に案内する機会を持ち丁寧な対応によって教育活動を紹介する。	訪問者に対する学校側の窓口として適切な対応を心がけた。	B	個別見学の申し込みをやすくするよう、HPに申し込みフォームをつくる。
	オンライン個別相談会	感染症のため外出を控えておられる方にも松蔭の教育内容を知っていただき、ご相談できるようにする。	感染症の影響ではじめる。申込制でZOOMを使って個別のご相談	A	年間を通じて複数回実施、ご参加数は多くはないが、一定数のお申し込みはあった。
	プレテスト プレテストアドバイス会	入試本番へ向けての練習として、また、松蔭に興味をもつていただく機会として実施する。	アドバイス会でフォローすることにより、受験へ向けての不安な気持ちを和らげる。	B	受験者数が大きく減少。多くの方に受験していただけるよう対策を考えたい。
	英語面接練習会	英語入試での受験をお考えの方に、より受験の意欲を持っていただけるようにする。	本番と同じ形式で個別に面接を実施、同時にアドバイスをする。	A	多くの方にご希望いただいたので、今後、2回に分けての実施を検討。
	高校入試説明会 高校入学相談会	高校専願入試についての説明、また、松蔭を知っていただくための説明会。	制度を詳しく説明した。特に途中入学への不安について。在校生と話をする機会をより多く設け、直接、細かなご質問をしていただけるようにした。iPad体験を実施した。	B	できる限り在校生とお話ししていただく機会をつくる。
	学校案内冊子など	教育内容、卒業後のイメージを的確に伝達できるようにする。	現在の教育活動や校風が的確に表現されるようにした。 長期休校があり、撮影ができなかった。	B	グローバルストリーム用のリーフレット、中学生に配布するための高校入試ガイドをリニューアルした。
	中学受験雑誌記事など	松蔭での教育活動を的確に伝達する。	記事原稿作成に協力した。	B	積極的な広報を行う。
	新聞雑誌記事掲載など	松蔭での教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	教育活動の紹介手段の1つとして掲載した。	B	積極的な広報を行う。
	新聞雑誌広告・看板	松蔭での教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	2系統のバス、阪神電車、山陽電車北神急行に広告を出した。	B	より効果的な広告を検討する。
	学校ホームページ	入試広報活動の一環として受験を検討する資料となるような内容を提供する。また入試広報イベントの告知・申し込みなどに活用する。	入試関連情報・イベント日程などを掲載した。	B	外部説明会など細かく情報を出した。レイアウトを変更し、見やすくなった。
	ノベルティグッズ等	小学生が魅力を感じるグッズの提供をはかる。	巾着袋、ファイルを卒業生にデザインしてもらった。	A	松蔭の特色に合致したグッズで、小学生に喜んでもらえるものを検討する。
	塾訪問	塾の先生方との関係を深め、より多くの塾生に松蔭を知ってもらう。	年間を通じて複数回の訪問を実施し広報・入試相談を行った。 感染症のため、例年より実施できなかった。	C	引き続き訪問活動をすすめるが、ただ訪問するだけでなく、内容を伴ったものにする。
	中学校訪問	松蔭が高校入試を実施していることを多くの先生方に知っていただく。	高校入試用にチラシ、ガイドを作成。 女子生徒への配布を依頼。	B	より多くの学校に配布を依頼し、ご来校につなげたい。
	公立中学校の先生方対象、私立高校説明会	松蔭の高校入試の概要を知っていただく。	10月に神戸市、加印地区の説明会に参加した。	B	他の地区でも説明会があれば積極的に参加したい。その後の中学校訪問につなげたい。

学 外 教 育 機 関 へ の 広 報	塾対象説明会	教育内容を説明し、通塾生、その保護者の方に松蔭を知っていただく。	9月に実施。 ストリーム制、高校入試について説明。	B	ご参加人数が減少してきている。塾の先生方にも興味をもってもらえるように工夫したい。
	模擬試験会場	受験生・保護者の方に松蔭を知っていただく機会とする。	感染症の影響で2回とも中止。		プレテスト同様、入試本番に近い形で受験できるようにした。

2020年度 学校自己評価（校務部・読書運動委員会）（ A よくできた B できた C あまりできなかった Dできなかった ）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
図 書 教 育	読書指導	生徒が読書の習慣を身につけるよう、指導する。	全校読書運動（第51回）	<ul style="list-style-type: none"> 読書運動委員会で今年度の全校テーマを決める。2020年度は「癒し」。 テーマにそって、各学年で具体的な課題を考案。 教員による推薦図書リスト、紹介文をプリントにして配布。 生徒たちは、プリントを参考に本を読み、夏休みの宿題として学年ごとに設定された課題に取り組んだ。 優秀作を図書館に展示。 国語科の取り組みとして、各学年で課題図書を決め、感想文を書かせた。今年度も、感想文の書き方について授業でも取り組んだ。授業後生徒たちは、400字程度の下書きを作成、提出し、授業担当者がアドバイスを書き込んで返却した。 感想文を校内読書感想文コンクール出品作として扱い、優秀作、佳作に選定された作品を12月アセンブリーで表彰。 	A	<p>今年度のテーマは「癒し」。</p> <p>委員の教員が各学年の会議で、「新型コロナウイルスのことで疲れ、ストレスを感じる昨今。私たちは、予防措置を講じながら、今できることをし、心と体を『癒し』て、元気になろう。本はあなたを必ず助けてくれる。」などと、このテーマに決定した理由や意図を述べた。人によって「癒し」を感じる対象は違うだろうということも、例を挙げて説明した。充実した推薦図書リストが完成し、どの学年も生徒が興味を持てるような課題を設定した。</p> <p>例年どおり、教員の思いに応じて、創意工夫をこらして積極的に課題に取り組んだ生徒が多く見られた。一方で、読書に興味を持っていない生徒もやはりいる。一人でも多くの生徒が読書好きになるように、今後も継続して教職員の協力を求めたい。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的な推薦図書の紹介等、読書指導の推進。 個人の嗜好に合わせた情報の発信の可能性も探りたい。 読書感想文、書評等の書き方の指導の充実。 読書運動冊子の活用法の検討。
			読書感想文作成	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の最優秀作品は、第48回兵庫県私学読書感想文コンクールに出品。今年度は、中学：特選2作（中3：1位）、佳作1作。高校：特選2作、入選1作。 特選の中学の2作品、高校の2作品は、第66回兵庫県コンクール応募作にも選ばれ、中3生徒の作品が兵庫県学校図書館協議会賞受賞作となった。 第51回全校読書運動冊子（読書運動の報告、読書感想文コンクール優秀作等を記載）を作成、配布した。 		
		ゴールドカード・プラチナカードの表彰 その他	<ul style="list-style-type: none"> この1年間に50冊以上図書館の本を読んだ生徒にゴールドカードを授与。2月アセンブリーで表彰（賞状とブックカバー）。 	A	今年度、プラチナカード（中学時にゴールドカードを取得していて、高校になってさらに年間50冊以上図書館の本を読んだ生徒に授与するもの）取得者はなし。たくさんの本を読んだ生徒を表彰したり、自分が読んだ本を確認させたりすることで、読書に対する興味をかきたてたい。左の取り組みは、今後も継続。	
	生徒が図書館を有効に利用できるようにする。 生徒がメディアリテラシーを身につけられるようにする。	総合学習等の調べ学習の際の利用。 授業での利用。	<ul style="list-style-type: none"> 各学年総合学習等のテーマに応じた関連図書をコーナーにまとめて展示し、わかりやすくした。必要時には、司書が説明。 授業での利用：中3理科「遺伝」、中2総合学習「出生前診断」「不妊治療」「難病、障害を持つ子を育てる」「産まないという選択」、高2美術「クリスマス」。ブックトラックでコーナー設置。生徒全員に行き渡るよう、市立図書館からも借り出して資料を提供した。 要請のあった教室へ、必要図書・関連図書の出前を行った。高1校外学習「京都」、高2修学旅行「沖縄」。 図書や資料の見つけ方、調べ方、マナーも含めてプリントにし、配布した。積極的な活用に役立ててほしい。 自習時間の利用にも対応した。 	B	各学年、各教科とのさらに密な連携を図り、要望に応えるための工夫をする。 教員側の意識をさらに高めることが課題。多くの教員が図書館に頻繁に来て、本を使った授業の工夫も行ってほしい。	

		図書館利用のルールを理解、遵守。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新入生、転入生に対して、オリエンテーションを行った。 ・ 日常的な利用に際して、きめ細かい指導を行った。 	A	時間不足気味なので、自習時間等、別の機会を見つけて補う。
		広報等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館情報誌「はと時計」を発行。本の紹介をはじめ、各種イベントの案内をした。 ・ 絵本ボランティア、レジンのチャーム作り、読書みくじ等の各種イベントを企画し、実施した。今後も実施していく予定。 ・ 高3生3学期有志参加プログラムの一環として、司書体験活動を実施した。 ・ チャリティブックバザーの実施。宗教週間の活動の一環として、不要になった本を持参してもらい、売却した利益を寄付。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「はと時計」のますますの充実を目指す。 ・ 積極的に楽しく活動できる機会を、さらに作りたい。
選書	係による選書	生徒、教職員に必要とされる図書の充実。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 係による定期的な選書を行った。 ・ リクエスト本について、随時審議した。 	A	より多くの教職員からのリクエストが望まれる。さらに幅広い選書を目指す。